



南山城三十三所
観音霊場

歴史探訪



お茶の京都

Discover
Premium
Green



南山城

三十三所

巡礼のはじまり

奈良時代、徳道上人によってはじめられた「西国三十三所観音霊場」が日本における巡礼の始まりと言われています。室町時代以降、西国三十三所にならった写し霊場が全国各地に設けられ、民間でも札所巡りが行われるようになりました。「三十三」とは観世音菩薩が衆生を救うとき「三十三」の姿に変化する信仰に由来し、その功德にあずかるために三十三の霊場を巡拝するといわれており、南山城でも江戸時代に三十三所観音霊場が定められました。

平成三十年（二〇一八）に日本遺産にもなった西国三十三所霊場が草創して一三〇〇年の記念の年を迎えました。

南山城三十三所の中には、廃寺になったもの、移転・移築されたものもありますが、現存するお寺をご紹介します。

観音霊場

南山城三十三所観音霊場は江戸時代の貞享年間(1684～1688)の頃に相楽郡綺田村(現木津川市山城町)の東光寺に住む如範という僧が西国三十三所観音霊場にならって南山城の三十三ヶ寺を選び、御詠歌をつくって人々に広めました。当時多くの人々が参詣しましたが、次第に廃れていき、天保6年(1835)に井手郷玉水の橘講中が村々に寄進を願い復興のために『巡礼記』を再刊したといえます。時代は明治に移り、神仏分離からの廃仏毀釈と寺院の統廃合により、約半数の寺院が廃寺となります。しかしそれらの観音本尊も最寄りの別寺に移り、巡拝の方を見守っておられます。

今回ガイドブック制作にあたりまして、継承寺院にもご協力いただき、20のお寺様を掲載しています。

みなさんも南山城の巡礼の旅、その足跡をたどってみませんか。

巡礼のマナー

- お寺は礼拝の場であり、仏像は信仰の対象です。
参拝の心を大切にしましょう。
- 巡礼は番号にとらわれず自由に巡ることができます。
- 当ガイドブックで紹介する文化財の中には、拝観にあたって予約が必要なお寺や、通常は公開されていない仏像などもあります。特別公開される場合もありますので、公開の有無や時期等の詳細は、観光協会または、各お寺へお問い合わせください。
- お寺によっては周辺に駐車場がなかったり、お寺までの道が細く、すれ違いが困難な場所があります。駐車場やルートについては、出発前に確認しましょう。
- ご朱印は、お経を書き写してお寺に納める「納経」の証であったといわれていますが、現代では、ほとんどの寺社で納経をしなくてもご朱印がいただける参拝の証となっています。ご朱印をいただく際には、じっくりと参拝して、それぞれのお寺の雰囲気味わってみてください。



南山城三十三所観音霊場一覧及び目次

札所番号	霊場名	掲載ページ
第一巻	瓶原 海住山寺	P 5
第二巻	海住山寺 奥の院 老宿坊	P 6
第三巻	加茂 燈明寺〔廃寺〕	P 6
第四巻	加茂 常念寺	P 7
第五巻	加茂 観音寺〔廃寺〕→ 地蔵院	※
第六巻	鹿背山 浄勝寺〔廃寺〕→ 西念寺	P 7
第七巻	上津 誓願寺	※
第八巻	木津 観音堂〔廃寺〕	※
第九巻	市坂 観音堂	P 7
第十巻	相楽 法泉寺	P 8
第十一巻	祝園 禅福寺	※
第十二巻	南庄 願成寺〔廃寺〕→ 蓮台寺	P 8
第十三巻	北稻八間 観音寺	※
第十四巻	北稻八間 岡本寺〔廃寺〕→ 観音寺	※
第十五巻	僧坊鞍岡山 神宮寺〔廃寺〕→ 若王寺	P 8
第十六巻	下伯僧坊 若王寺	P 8
第十七巻	菱田 長福寺〔廃寺〕→ 西方寺	P 9
第十八巻	宮ノ口 観音堂〔廃寺〕→ 法雲寺	P 9
第十九巻	江津宮 恵日寺〔廃寺〕→ 壽寶寺	P 9
第二十巻	出垣内 念仏寺	※
第二十一巻	普賢寺 大御堂観音寺	P10
第二十二巻	興戸 観音寺〔廃寺〕→ 光照寺	P11
第二十三巻	北谷 日光寺	P11
第二十四巻	飯岡 蓮華寺〔廃寺〕→ 阿弥陀寺	P11
第二十五巻	水無 東福寺〔廃寺〕→ 西福寺	※
第二十六巻	井手山 栄福寺〔廃寺〕→ 地蔵禅院	P12
第二十七巻	石垣 観音寺〔廃寺〕→ 西福寺	P12
第二十八巻	綺田国見 観音堂	※
第二十九巻	綺田 蟹満寺	P13
第三十巻	平尾 福王寺〔廃寺〕→ 十輪寺	※
第三十一巻	神童寺 蔵王堂	P14
第三十二巻	狛松の尾 伝興寺〔廃寺〕	※
第三十三巻	地蔵の前 泉橋寺	P14

◇ 加茂 エリアMAP 寄り道スポット	P15
◇ 木津 エリアMAP 寄り道スポット	P16
◇ 精華 エリアMAP 寄り道スポット	P17
◇ 京田辺エリアMAP 寄り道スポット	P18
◇ 井手 エリアMAP 寄り道スポット	P19
◇ 山城 エリアMAP 寄り道スポット	P20
◇ 南山城への交通アクセス	P21
◇ 観音様のいろいろ・豆知識用語いろいろ	P22

※印は、廃寺等のため掲載しておりません。